

問1 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。 (2019年

千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--|---------------------------------------|
| 1. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた | 2. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された | 3. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった | 4. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--|---------------------------------------|

問2 縄文時代に作られた、まじないや豊かな収穫、安産などを祈るために用いられたとされる、人や動物をかたどった土製品を何といいますか。

(2019年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|--------|-------|-------|
| 1. 石包丁 | 2. 青銅器 | 3. 埴輪 | 4. 土偶 |
|--------|--------|-------|-------|

問3 山形県の西ノ前遺跡から出土した、その美しい造形から「縄文の女神」として国宝に指定されている土製品についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。 | 2. 弥生時代の遺跡から見つかった土偶であり、大陸から伝わった稲作の成功を祈るために使われた。 | 3. 飛鳥時代の寺院跡から出土した仏像の原型であり、鎮護国家の思想を反映している。 | 4. 古墳時代の古墳の頂上付近から発見された埴輪であり、葬られた有力者の権威を示している。 |
|---|---|---|---|

問4 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。 (2026年

熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 埴輪 | 2. 銅鐸 | 3. 土偶 | 4. 石包丁 |
|-------|-------|-------|--------|

問5 縄文時代の人々の暮らしと文化についてまとめた資料によると、当時の人々は磨製石器などの道具とともに、土器を作り始めました。縄文時代において、土器が果たした主な役割として適切なものはどれですか。 (2018年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------|------------------------------|-------------------------|-------------------------------|
| 1. 大規模な稲作を行うための、種もみを長期間保管するため | 2. 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため | 3. 金属を溶かして、より強力な武器を作るため | 4. 大陸との交易において、貨幣の代わりとして使用するため |
|-------------------------------|------------------------------|-------------------------|-------------------------------|

問6 佐賀県の東名遺跡（ひがしみよういせき）では、約8千年前の地層から植物の繊維で編まれた国内最古級の「編みかご」が発見されました。このような発見から推測される、当時の人々の生活習慣や信仰に関する記述として正しいものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 有力な王が各地を支配しており、その権力を象徴するために巨大な前方後円墳が造られた。 | 2. 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。 | 3. 大規模な灌漑設備を整えて稲作を行い、村同士の争いに備えて周囲に堀を巡らせた環濠集落で暮らした。 | 4. 仏教の教えが広まり、国家の安泰を願って各地に国分寺や国分尼寺が建立された。 |
|--|---|--|--|

問7 縄文時代の始まりにおける自然環境の変化と、それに対応した食料資源の変化について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2019年

千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 海面の上昇によって沿岸部が失われたため、人々は内陸の山岳地帯に移動して大型動物の狩猟のみに専念した | 2. 気候の温暖化によって広葉樹の森が広がり、ドングリなどの木の実やシカ、イノシシなどが豊富になった | 3. 気候の寒冷化にともなって針葉樹林が発達し、マンモスやナウマンゾウなどの大型動物が主な食料となった | 4. 乾燥した気候に変化したことで草原が広がり、それまで行われていた採集に代わって家畜の放牧が始まった |
|--|--|---|---|

問8 縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。

(2018年 香川県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|----------|---------|-------|
| 1. 貝塚 | 2. 高地性集落 | 3. 環濠集落 | 4. 古墳 |
|-------|----------|---------|-------|

問9 縄文時代の遺跡である貝塚が、当時の社会や生活を研究する上で「考古学的資料」として極めて重要視されている理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 香川県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 集落の周囲を深い溝で囲むことで、稲作をめぐる集落間の争いがあったことや、防衛のための組織的な仕組みがあったことを示すから。 | 2. 巨大な石材を用いた石室や、死者とともに埋められた豪華な副葬品が発見されることで、当時の強力な権力者の存在を証明できるから。 | 3. 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。 | 4. 炭化した米や高床倉庫の跡が発見されることで、当時の人々が計画的に食料を生産・貯蔵していた社会構造を裏付けられるから。 |
|--|--|--|---|

問10 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とその際に用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。 | 2. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。 | 3. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。 | 4. 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。 |
|--|---|--|---|

問11 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。 | 2. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。 | 3. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。 | 4. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。 |
|---|--|--|---|

問12 縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた | 2. 自然の恵みに感謝し、食べ物のかさや安産などを祈るために作られた | 3. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた | 4. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた |
|------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた	約1万年前に氷期が終わり、地球全体の気候が温暖化しました。その結果、大陸の氷河が溶けて海面が上昇し、それまでユーラシア大陸と地続きだった部分が海に沈んだことで、日本列島は現在のような島国の姿になりました。この環境の変化が縄文時代の始まりに大きく寄与しています。
問2	答え 4 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信仰しており、食物の豊穡や子孫繁栄を祈るために、女性をかたどった人形（ひとがた）などの土製品を作りました。これに対し、古墳時代の古墳の周囲に並べられた土製品は埴輪と呼ばれ、目的や時代が異なります。
問3	答え 1 縄文時代に作られた土偶の一種であり、当時の人々の祈りや願いが込められている。	「縄文の女神」という名称からも分かる通り、これは縄文時代に製作された土偶です。山形県舟形町の西ノ前遺跡から出土したこの土偶は、高さ45cmと日本最大級であり、当時の高い技術と精神文化を示しています。土偶はあくまで縄文時代の文化であり、古墳時代の埴輪とは製作された背景が明確に異なります。
問4	答え 3 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問5	答え 2 木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするため	縄文時代、人々は定住生活を送る中で、採集した木の実や捕らえた獲物を調理する必要がありました。土器の出現によって、食料を「煮る」ことが可能になり、それまで食べられなかった硬い食材が食べられるようになったほか、食料の保存性も高まりました。
問6	答え 2 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。	東名遺跡で発見された編みかごは、縄文時代の人々が身近な植物を利用して食料の採集や運搬を行っていた高い技術を持っていたことを示しています。この時代の生活は自然環境に強く依存していたため、自然の力を畏れ、豊かな収穫や安産などを祈る呪術的な道具として土偶が盛んに作られました。古墳の造営や環濠集落、国分寺の建立は、より後の時代（古墳時代、弥生時代、奈良時代）の出来事です。
問7	答え 2 気候の温暖化によって広葉樹の森が広がり、ドングリなどの木の実やシカ、イノシシなどが豊富になった	温暖な気候への変化により、日本列島にはブナやナラなどの落葉広葉樹や照葉樹の森が広がりました。これにより、人々の重要な食料となるクリやドングリなどの木の実が採れるようになり、またこれらの森をすみかとするシカやイノシシといった中小動物が増加したことで、狩猟・採集を基盤とする縄文文化が発達しました。
問8	答え 1 貝塚	縄文時代に見られるこの遺跡は、当時の人々が食べ残したカスや壊れた道具を捨てた場所が堆積してできたものです。貝殻に含まれるカルシウム成分の影響で、本来なら土中で分解されやすい魚や獣の骨が保存されやすいため、当時の食生活や自然環境を解明するための貴重な手がかりとなります。
問9	答え 3 食べた後の貝殻や骨、破損した土器などが堆積しているため、当時の人々の食生活や利用していた道具の種類を具体的に知ることができるから。	貝塚は単なる「ゴミ捨て場」ではなく、何層にもわたって当時の生活の痕跡が積み重なったタイムカプセルのような役割を果たしています。出土する骨の種類から、季節ごとの狩猟・採集活動の様子を分析することができ、縄文時代の人々が自然のサイクルに合わせて豊かに暮らしていた背景を裏付ける資料となっています。
問10	答え 4 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。	縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛んになった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問11	答え 3 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。	三内丸山遺跡からは、栗の木の栽培や魚介類、獣の骨などが大量に出土しており、自然の恵みを巧みに利用して安定した生活を送っていたことがわかっています。水田稲作や高床倉庫、金属器の利用は主に弥生時代以降の特徴であり、巨大な古墳の造営は古墳時代の特徴です。この遺跡の発見は、縄文人が原始的な移動生活をしていたという旧来の説を覆し、高度な定住社会を築いていたことを証明しました。
問12	答え 2 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。